

7. 作業療法教育*1

宮前 珠子*2

1. 歴史・学校数・入学定員・有資格者数

我が国の作業療法士（occupational therapist：以下、OT）養成は、世界保健機関（WHO）の勧告によって始まり、初の養成校は1963年に国立療養所東京病院付属リハビリテーション学院（砂原茂一学院長）に20名定員で3年制各種学校として開設された。1965年に「理学療法士及び作業療法士法」が制定され、1966年には第1回国家試験が行われて特例試験受験者を含め20名のOTが誕生した。

その後1966年に九州リハビリテーション大学校、1969年には東京都立府中リハビリテーション学院がいずれも20名の養成定員で開設され、これら3校のみの時代は1973年3月まで続いた。1974年に「身体障害作業療法、精神障害作業療法」など、作業療法に関する診療報酬がはじめて制定されたのを一つの契機にOT養成課程は緩やかに増加し、1990年には33校となったが、その後急増の時代が始まる。およそ5年ごとの学校数、養成定員数、作業療法士の有資格者数累計は表1に示す通りである。

2. 教育制度

前述のように、当初OT養成校は3年制各種学校として始まったが、1975年の「学校教育法」改正により、専修学校制度が出来、1975年以降、厚生（労働）省系の養成施設は専修学校となった。OT養成教育を4年制学士課程で行うことは、当初からOTの悲願であったが、1977年に日本学

術会議が「4年制理学療法士/OT学士課程教育の提言」を行ったことによりようやくその方向性が見え始め、1979年に初めての文部省系の課程として、金沢大学医療技術短期大学部に、3年制ではあるがOT養成課程が出来た。

OT養成の学士課程ができたのは、日本学術会議の提言がなされて15年後の1992年であり、広島大学医学部保健学科作業療法学専攻である。これに引き続き1996年には初の修士課程が、広島大学大学院医学系研究科保健学専攻博士前期課程として生まれ、更に1998年には博士後期課程が誕生した。

表1に示した通り、2009年度現在、OT養成校は179校、199課程（昼夜間の2コースを持つ学校があるため）あるが、このうち56課程が4年制大学（国立：13、公立：8、私立：35）であり、1課程が3年制短期大学で、142課程が専修

表1 作業療法士養成に関する年表

年	学校数	養成定員	有資格者累計*
1966	2	40	20
1970	3	60	308
1975	5	100	552
1980	13	270	972
1985	28	585	2,129
1990	33	700	4,677
1995	58	1,690	7,690
2000	107	3,593	14,858
2005	156	6,575	29,511
2009	176	7,606	47,759

* 特例試験実施期間：1966～1974年（沖縄以外）、1978～1985（沖縄）

（出典：健康政策六法「統計資料」及び日
本作業療法士協会ニュース）

*1 Occupational Therapy Education

*2 Tamako MIYAMAE 聖隷クリストファー大学

学校である。専修学校のうち過半数が4年制専修学校であり、半数弱が3年制専修学校になっている。なお、近年は定員割れも起こり始め、いくつかの専修学校は募集停止となっている。詳細は日本作業療法士協会 <http://www.jaOT.or.jp/2009yoseiko.html> を参照。

3. 教育内容

OTの教育内容は、「理学療法士及び作業療法士学校養成施設指定規則」によって定められているが、文部科学省管轄の大学・短大にあっては、大学設置基準の要件も同時に満たす必要がある。文部科学省は1991年に大学設置基準を改訂し、いわゆる「設置基準の大綱化」を行ったが、OT養成校では大学においても厚生労働省指定規則の縛りがあり、すぐには大綱化に基づくカリキュラム編成をすることは出来なかった。

その後1998年12月に「理学療法士及び作業療法士学校養成施設指定規則」の大綱化が決定し、1999年4月から施行され、各養成校はかなりの自由裁量をもってカリキュラム編成ができるよう

になった。参考までに1999年の教育内容と、大綱化以前の1990年の教育内容の対照表を表2に示す。なお大綱化の際、教員の要件も改訂され、それまで「40人以下の学生に対し、OTである専任教員4名（2名は5年以上の作業療法経験、2名は3年以上の経験）と医師である教員1名（作業療法に関する経験5年以上）が必要である」とされていた（1986（昭61）文厚令）のが、「40人以下の学生に対して、OTである専任教員が6名（全員が5年以上の作業療法経験）必要である」（1999（平11）文厚令）という規定となった。

一方、世界作業療法士連盟（WFOT：World Federation of Occupational Therapists）は、加盟国に教育最低基準（最新版2002年）を示している。そのため日本作業療法士協会は、2003年に「作業療法士教育の最低基準」を定め、我が国の指定規則とWFOT基準の両者を満たす基準を作成し、各養成校に対し、5年に一度審査を行っている。結果は次のサイトに示されている。
<http://www.jaOT.or.jp/2009yoseiko.html>

表2 作業療法士学校・養成施設教育内容新旧対照表
(理学療法士及び作業療法士学校養成施設指定規則より)

1990年4月施行			1999年4月施行		
		時間数			単位数*
基礎科目	人文科学	90	基礎分野	科学的思考の基盤	14
	社会科学	60		人間と生活	
	自然科学	90			
	保健体育	60			
	外国語	60			
	小計	360		小計	
専門基礎科目	解剖学	165	専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	12
	生理学	120			
	運動学	90			
	病理学概論	30			
	臨床心理学	30		疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	12
	リハビリテーション概論	30			
	リハビリテーション医学	30		保健医療福祉とリハビリテーションの概念	2
	一般臨床医学	30			
	内科学	60			
	整形外科学	60			
	神経内科学	60			
	精神医学	90			
	小児科学	30			
	人間発達学	30			
小計	855	小計	26		
専門科目	作業療法概論	90	専門分野	基礎作業療法学	6
	基礎作業学	165		作業療法評価学	5
	作業療法評価法	75		作業治療学	20
	作業治療学	285		地域作業療法学	4
	作業療法技術論	180			
	臨床実習	810		臨床実習	18
	小計	1,605		小計	53
選択必修科目	専門科目中心	200			
合計	3,020	合計	93		

*単位の計算方法は大学設置基準第21条第2項の規定の例による